



2022年度がはじまり、労働者協同組合法施行まで残り半年を切った。厚生労働省では労働政策審議会勤労者生活分科会が5月10日開催され、施行令・施行規則・指針の内容が確認され、ホームページで公開。各都道府県では市町村向けの学習会や市民向け周知広報等事業が、市町村でも住民向けの学習会や具体的な相談支援事業などが検討され少しずつ始まる。

厚生労働省「労働者協同組合法に係る相談窓口及び周知広報等事業」の準備も、新しく4月より発足した勤労者生活課労働者協同組合業務室と連日やり取りをしながら、6月1日の相談窓口及びWEBサイトの開設、周知広報(ポスター、リーフレット、パンフレット)の作成などの準備を進めている。WEBサイト作成は創造集団440Hz、周知広報のデザインはポノワークス、環境に配慮した印刷ではアーク印刷と、労協連加盟組織と力を合わせて、非常にタイトなスケジュールのなか準備を進めている。また全国7ヶ所でのフォーラム開催も、9月から都道府県と連携して順次開催していく。またワーカーズコープとしては7ヶ所で開催するにとどまらず、すべての都道府県で学習会を開催し、7つのフォーラムや相談窓口につなげると共に、参加者が具体的に労働者協同組合や協同労働団体の立ち上げに結びつくように現地のワーカーズコープでも寄り添い支援していきたい。昨年度からの協同労働・労働者協同組合の設立相談が200件を超え、各地域で設立に向

けた取り組みが進んでおり、これまでのワーカーズコープでの仕事おこしなどの経験を活かして全国で推進していく。

4月は、アースデイ東京(4/16-17)やメーデー中央集会(4/29)など各種イベントにもワーカーズコープとして参加。少しずつ周知も進んできていて、ブースにワーカーズコープを聞いたことがあるとか、教えて欲しいとか、働きたいとか、ボランティアができるのかなど、若い人を中心に多くの人たちが訪れる。アースデイ東京ではセンター事業団の首都圏の事業本部が集り、竹で作った竹テントのブースを10ブース以上出店し「ワーカーズコープビレッジ」を創り盛り上げる。廃油からバイオディーゼル燃料(BDF)を製造し、BDFを使った発電でビレッジ全体に電力を供給。また合成洗剤を使わないせっけんをベースとしたナチュラルハウスクリーニング、八王子で量り売りなどをはじめたCHITOSEYA、林業や障がい者就労支援の現場からは木のコースターや竹ストローなどを販売。さらには加盟組織である903シティファーム推進協議会では有機野菜販売、創造集団440Hzはウクライナのフリースクールが難民支援拠点となっておりその応援など、多様な取り組みを通して協同労働・ワーカーズコープをアピール。

法施行に向けて、ウイングを拡げ、多様な人たちと出会い、共感を拡げていく。